

すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報

第254号
2015年3月



一般社団法人
大学女性協会



国内奨学金贈呈式 2015年1月10日(土) 京王プラザホテル4F「扇の間」にて

もくじ

〈2015年度全国総会・第4回定時会員総会ご案内〉

会長挨拶・総会関連行事のご案内……………	2	事業報告……………	9
全国総会のご案内……………	3	ワークショップ(東京、芦屋開催報告)・自然科学講演会	
国内奨学金贈呈式……………	4	支部だより 北から～南から 新潟・岡山支部…	10
研究概要と将来の抱負……………	5～7	2015年新春のつどい、コンサート、奈良支部留学生交流会…	11
世界の女性との連携……………	8	守田科学研究奨励賞贈呈式・HP管理委員会・理事会から	
		コンサート・観劇のお知らせ・新入会員……………	12

全国総会・定時会員総会ご案内

2015年5月21日(木)～5月22日(金)

新年あいさつ 仙台での全国総会へのお誘い 会長 中村久瑠美



2015年を皆様、ご機嫌よくお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年5月の東京、都市センターホテルにおける全国総会におきまして、あたらしく会長、副会長以下理事13名が選任され、新執行部としてJAUWを運営していくことになりました。なにかと不慣れなことも多く、ご迷惑をお掛けした

かとも思いますが、皆様方のご協力を得て、なんとか順調に諸活動を進めております。

JAUWの今年の目標はいくつかございますが、まず第一は仙台での、全国総会の開催です。5月21-22日青葉しげる仙台へ、皆様ぜひご参集ください。

総会は本会の最高意思決定機関です。会員の意見や希望、意思を直接総会にて、表明していただくことができます。また全国のJAUWの会員とお顔あわせができ、互いに親睦や意見交換もできます。もちろん理事会や本部の詳細な動きを直接把握できる貴重な機会です。

とくに仙台は、4年前にあの東日本大震災の大きな被害をうけられ、様々なご苦勞や難儀をされた方も少なくなかったと思います。私たちJAUWの仲間としてその復興をお慶び申し上げるとともに、いまなお十分な復旧には至っておられない方々のため何かお役に立つこと、協力できることがあるなら是非ともお手伝いをさせていただきたく思っております。そのためにも、このたびの仙台での総会へは、ひとつでも多くの支部から、ひとりでも多くの会員が参加されますよう、お誘いし、お願い申し上げます。

仙台支部の皆様、5月の総会開催のため準備等々ですすでに多大なご苦勞をお掛けしていることと恐縮しております。本部からもできる限りの協力をいたしますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

今年は秋10月17-18日には筑波にて、全国セミナーも開催されます。テーマは昨年に引き続き「女性の自立とは？」-女性の自立をはばむものは何か-です。どうか各支部ごとに、また各委員会においても、このテーマの下、様々な課題を選んで研究し、その成果をセミナーにて発表してください。皆様のお手元にとどく2014年度シンポジウム報告書を参考にして、積極的に挑戦されると、興味深いものになると思います。茨城支部の皆様にはお世話をお掛けしますが、よろしくお願い申し上げます。

さあ、今年一年、会員一同協力しあって、実り豊かなJAUWにしようではありませんか。皆様の本年のご健康とご活躍を祈念して、ご挨拶といたします。

総会関連行事のご案内 仙台支部実行委員長 谷地森涼子

2015年度全国総会・第4回定時会員総会が仙台で開かれます。東日本大震災から4年になります。全国の会員の皆様から寄せられたお見舞い・ご支援に対し、感謝の念を込めて、仙台支部では関連行事の準備を進めています。

会場確保の関係で、平日の開催になり、会場も仙台国際ホテル、エル・パーク仙台の2か所となります。皆様にご不便をおかけしますことをお許しください。

支部長会は改めて本部よりご案内があることでしょう。

会員の親睦を図る懇親会には、渋谷支部長はじめ、会員による音楽と語りの楽しいひとときを企画しています。仙台支部ならではの趣向で、まさに「乞うご期待！」です。

総会午後の講演は、哲学・科学基礎論がご専門の野家啓一氏（東北大学総長特命教授）を講師にお迎えします。テーマは「大震災後をどう生きるか～科学技術と価値の組み換え～」大切なものは何かを考えてみたいと思います。

研修旅行は、仙台近郊の沿岸部に皆様をご案内し、被災地の現在の様子をご覧いただき、旧伊達邸「鍾景閣」で昼食をとります。暫しお寛ぎいただいた後、青葉城址に立ち寄り、天守閣跡地から仙台市を展望します。地震で石垣が崩れ、通行止めになっていた道路が、ようやくこの2月開通しましたので、隅櫓付近の、青葉萌ゆる季節の美しい眺めをお目にかけることができるでしょう。ただこの企画はバスの定員が45名に限定されますので先着順となり、大変心苦しいのですが、お断り申し上げる場合もあることをご了承ください。皆様のおいでをお待ちしております。

2015年度全国総会・第4回定時会員総会日程

2015年度全国総会・第4回定時会員総会ご案内

2015年度全国総会・第4回定時会員総会を下記の日程で開催いたします。

皆様お誘い合わせのうえ、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

1. 総会日程

5月21日(木) (会場：仙台国際ホテル)

支部長会 14：00～17：00 4F 広瀬 東

懇親会 18：00～21：00 4F 広瀬

5月22日(金) (会場：エル・パーク仙台)

全国総会 9：30～16：30 5F セミナーホール

午前の部 第4回定時会員総会

午後の部 講演会「大震災後をどう生きるか
～科学技術と価値の組み換え～」
野家啓一(東北大学総長特命教授)
報告・懇談

2. 参加費

懇親会参加費：8,000円

総会費：3,000円 総会昼食代：2,000円

3. 宿泊

宿泊ご希望の方は、JAUWとしてはご案内いたしませんので、各自で予約をお願いいたします。

4. 申込方法

①申込書に必要事項を記入の上「支部提出用」は各支部へ提出。「個人控」が必要な方は各自でご用意下さい。各支部で出席者を取りまとめ「支部出席まとめ用紙」にご記入の上**3月31日(火)まで**に下記にお送り下さい。

②費用(総会費、昼食費、懇親会費、研修旅行参加費)は、**4月10日(金)まで**に、同封の振込用紙を用いて個人別にお振り込み下さい。通信欄に必ず、ご参加項目、支部名をご記入下さい。

振込先 口座番号：02230-1-138194
口座名称：一般社団法人大学女性協会仙台支部

③総会、昼食、懇親会、研修旅行のキャンセルは**4月30日(木)まで**とします。但し、総会費3,000円は、日時に関係なく返却できませんのでご了承下さい。

*ご不明の点がございましたら、下記、谷地森 涼子までお問い合わせ下さい。

*第4回定時会員総会開催通知は、議題を添えて4月23日頃発送いたします。

実行委員長 谷地森 涼子
〒982-0807 仙台市太白区八木山南1-9-4
Tel & Fax：022-244-1038
Eメール：yatimori@ve.cat-v.ne.jp

研修のご案内

★5月23日(土) 研修旅行(先着45名) 6,500円

仙台市沿岸部被災地見学、青葉城址より仙台市展望

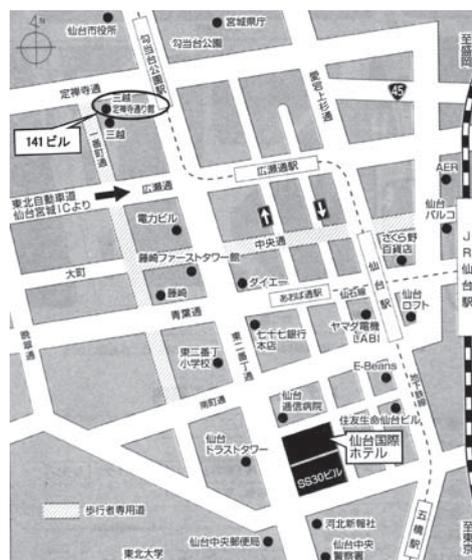
昼食：仙台市指定有形文化財 旧伊達邸 鐘景閣

8：45 国際ホテル玄関集合

15：00 仙台駅解散

国際ホテルへのアクセス

〒980-0021 仙台市青葉区中央4-6-1 Tel：022-268-1111



最寄駅 ◎JR 仙台駅(西口側)より
①タクシー：約5分。②徒歩：約15分。

エル・パーク仙台へのアクセス

〒980-8555 仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル(仙台三越定禅寺通り館)5F Tel：022-268-8300



◎JR 仙台駅(西口側)より
①タクシー：約10分。定禅寺通・一番町通角(地図★印箇所)降車。
②地下鉄：泉中央方面行乗車、勾当台公園駅下車(約3分)。公園2出口(エスカレーター)又は北1出口(エレベーター)より徒歩約2分。
③徒歩：約20分

会員の皆様へのお願い

4月23日頃、「第4回定時会員総会開催通知」を「議決権行使書」とともに正会員宛に発送いたします。開催通知には予算案及び決算報告、各議案が同封されていますのでご覧ください。定時会員総会は重要な総会ですので、正会員の皆様には万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いいたします。ご欠席の場合は、「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上5月16日(土)必着でご返信ください。

国内奨学金贈呈式

2015年1月10日（土）京王プラザホテル4F「扇の間」にて

選考にあたって

第67回 一般奨学生

第24回 安井医学奨学生

国内奨学委員長

秋光 正子

大学女性協会国内奨学金は、一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金の3部門からなり、一般奨学生と社会福祉奨学生の中から特に女性、教育、国際関係分野の研究を行う者1名をホームズ奨学生として選んでいます。

今年度は6月7日、Web募集と同時に各支部を経由するなどして合計237大学へ募集書類を発送し、8月29日応募を締め切りました。全応募者数は66大学、69名でした。その内一般奨学生応募者は12支部47名でしたが、各支部の中で一次選考として半数に絞り、9月19日の時点で一般奨学生応募者27名、安井医学奨学生応募者10名が残られて10月26日の本選考に入りました。選考委員14名による厳正な審査では、応募学生の研究内容とともに関連した分野への啓蒙活動や奉仕、体験活動など社会的な活動姿勢にも重点が置かれ、大学女性協会ならではの選考を行いました。その結果、一般奨学生5名、安井医学奨学生1名が、またホームズ奨学生は一般奨学生応募者の中から1名候補者として選考され、11月1日の理事会において正式に奨学生として承認されました。以下各奨学生について紹介します。

ホームズ奨学生は、村瀬里紗さん。社会運動団体の連携と分析としてスリーマイルと福島での脱原発運動の比較分析に取り組んでおられ、ホームズ奨学生としての資格を認められました。

一般奨学生は、つぎの方々が高い評価を得て選考されました。生理的血管新生を制御するメカニズムを研究されている足立博子さん、ホログラフィック光ディスクによる超高速光相関システムを開発されている池田佳奈美さん、現代キューバのクラシック音楽実践における芸術的経験の構造を解明しようと取り組まれている田中理恵子さん、希土類金属ユーロビウム化合物の物性を研究されている仲村愛さん、戦後のテレビジョンドキュメンタリーの表現の変遷を分析されている丸山友美さんの5名です。

安井医学奨学生は、眞島いづみさん。口腔バイオフィルム感染症の新しい予防法の探索に取り組んでおられます。

奨学生として選ばれた皆さんは独創的な研究に熱心に取り組まれていることに加えて外への発信力が群を抜いて活発であることが共通して高く評価されました。将来素晴らしい女性リーダーとしての役割を果たして下さることを期待しています。

第43回社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長

児林 英子

国内奨学委員会と共に始まった社会福祉奨学生募集は、新春の贈呈式で結実いたしました。2014年6月に奨学生候補者の推薦を各支部長及び大学学長に依頼すると同時にWebで募集を始め、8月末に締め切りました。本年度は昨年度の倍にあたる12名（大学院生4、大学生8）の応募をいただき、選考はより煩雑に複雑になりましたが、委員一同真摯に選考に当たりました。10月11日の選考委員会には、オブザーバーとして選考担当理事にもご出席いただき、大学院生1名、大学生2名を選出し、11月1日の理事会で正式に奨学生として承認されました。

渡邊奈月さんは、岐阜大学大学院 医学系研究科 再生医科学専攻 博士後期課程3年に在籍。「色素前駆細胞が有する多分化能に対するNotchシグナルの重要性」を研究し、疾患の原因解明や治療に貢献しようとして努力していらっしゃいます。永野椎奈さんは、金沢大学 人間社会学域 地域創造学類 福祉マネジメントコース4年に在籍。「知的障害のある人の意思決定をどのように支援するか」という問題を、選挙に焦点を当てて考察し、「生き辛さ」を抱えている人々の生活向上のため、尽力していきたいと望んでいらっしゃいます。山科夏実さんは、早稲田大学 社会科学部 社会学科2年に在籍。「身体障害者の実態と社会福祉及び法律の変遷について」自らが障害者である存在を意味あるものとし、障害者にとって過ごしやすい社会を創ることを目指していらっしゃいます。このように、奨学生は自らの障害に向き合いながら、他の障害者のためにと研鑽を重ねられている姿に改めて感動を覚えました。



—贈呈式—

研究概要と将来の抱負

ホームズ奨学生

社会運動団体の連携と分析 ―スリーマイルと福島における脱原発運動のマイクロプロセス比較分析

上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻
博士前期課程2年 村瀬 里紗

本研究の目的は個人の認識や感情、フレーム論、そして集合的アイデンティティに基づく3つの分析視点を統合的に用いることによって運動団体間の連携、もしくはその不在を生み出すミクロ・プロセスを理解することである。これまで、1979年、アメリカにおけるスリーマイル原子力発電所事故と2011年、日本における福島第一原子力発電所事故の際に起きた、脱原発運動を比較し、運動の発展に必要な団体間の連携がどのようにして生まれるのかを調査してきた。両運動の発生過程は似通っているにも関わらず、その後、スリーマイルでは運動団体間の連携、そして福島では分断という大きく異なる道を歩んだ。何がこの違いを生み出したのか。この疑問が「何故、そして、どのように運動団体間の連携もしくは分断が生まれるのか」という問いにつながった。

この問いに答えるため、地元住民へのインタビューに加え、調査票を用いた調査を進めてきた。スリーマイルでの原発事故の際、類似の調査票調査がEdward Walsh (1983) によって行われている。この Walsh 調査の調査票と本研究の調査票調査の結果を並べて分析することで、福島とスリーマイルをよりシステムティックに比較することが可能となる。

この研究を通して、社会運動研究領域でのミクロ・プロセスに対する理解が一步先に進み、初の試みとしての被災者心理の国際比較研究が可能となる。また学術的貢献のみならず、私自身、研究者として常に市民の側に寄り添い、専門性を武器に、問題の解決に向け貢献していきたい。

一般奨学生

生理的血管新生を制御する新規分子シグナルの同定および機能の解明

京都府立医科大学大学院 医学研究科 博士課程2年
足立 博子

血管新生は本来、生命の維持に不可欠な現象であるにも関わらず、調節分子シグナルのバランスが破綻することによって病的血管新生が引き起こされる。既知の分子シグナルを標的とした抗血管新生治療薬は一定の効果をあげているが、重篤な有害事象も報告されており、血管新生は未知の分子シグナルによって複雑に制御されていることが推察される。したがって既存の抗血管新生治療の効果を高める

ためにも、あらゆる血管新生の基礎となる生理的血管新生の全容を解明することは極めて重要である。

私は本学修士課程入学後より、生理的血管新生が観察される出生前後のマウス網膜を用いて網羅的発現解析を実施してきた。マイクロアレイにより取得された23,474遺伝子の発現データを、厳正にデータクリーニングし、多面的に解析した結果、これまで血管新生との関連性が報告されていない5つの候補遺伝子の獲得に成功した。博士課程進学後、現在は内皮細胞株を用いて候補遺伝子の機能解析を実施している。

将来は血管新生の研究で医療の発展に貢献すると共に、女性が活躍できる研究社会の発展に寄与したい。

大規模映像識別に向けた光並列画像処理に関する研究

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
博士前期課程2年 池田 佳奈美

大容量情報を扱う時代を迎え、画像・映像の高精細化など取扱うデータ容量の増加により、高速・高精度な認識検索技術の要求が高まっている。しかしながら、膨大なデータベースとの照合する場合、外部ストレージ（ハードディスクドライブ（HDD）やSSD）からの転送速度が、検索処理速度のボトルネックとなる課題がある。我々のグループでは膨大なデータを光並列で高速転送を行い、高速相関を行う光相関システムの研究開発を行ってきている。ホログラフィック光ディスクを用いることで、光データの読み出しと同時に相関演算可能であり、通常のコンピュータ（転送速度：数Gbps）に比べ圧倒的な転送速度での光並列画像処理が可能である。私の研究では、実験とシミュレーションの両面から、光並列用データの設計による光並列数の向上、ホログラム記録時間の短縮に向けた最適条件を算出した。これにより目標の100Gbps以上の高速転送と高速相関演算に向けた基盤技術を実現した。

今後は、博士後期課程に進学し、社会の需要に対して自分の専門分野から貢献できるアプローチを考えられるよう、地道な努力を積み重ねていきたい。また、グローバルな視点を養い、積極性と向上心を持って物事に取り組みたい。そして、世代や分野を超えた人とのコミュニケーションを大切に、その中から積極的に新しいアイデアを生み出すことも心掛けていく。

生と芸術の民族誌

―現代キューバにおけるクラシック音楽の生成と社会変容

東京大学大学院 総合文化研究科 博士課程3年
田中 理恵子

私はこれまで、現代社会を基礎とする音楽実践を対象として、文化人類学の立場から芸術研究を行ってきました。博士課程では、現代キューバ社会におけるクラシック音楽

実践に焦点を絞り、現地での質的調査を踏まえて、人びとの経験の場から芸術の創造性を検証すること、その全体を「生と芸術の民族誌」として描くことを進めています。

研究対象であるキューバの音楽実践は、民衆文化／高次文化、西洋文化／非西洋文化に区別されない、双方の音楽的伝統を併せ持つことを本質としています。そのため、従来の芸術概念の基準となってきたような「真正性」の議論を無効し、まさに彼の地で「音楽が生成する」仕組みと、経済危機・物資不足の状況下で、人びとが様々な諸アクターを飲み込んで「自らの音楽とする」生の実践プロセスとを力強く示しているのです。従ってこの研究は、音楽あるいは芸術的経験や感性といった根源的な課題を、現代キューバの社会変容とともに描くことを通して、西欧近代の思想に支えられた「芸術」研究に新たな光を投げかけ、人びとの「生きること」と切り離すことのできない、芸術「生成」のダイナミズムの一端を明らかにする挑戦でもあるといえます。

将来は、大学院での研究成果と、これまで社会活動として取り組んできた地域の芸術実践との連携、海外調査・研究で培ってきた国際的連携、を視野に入れながら、人類学分野で学んだ「人との対話」「人とのつながり」を、理論／実践にとらわれずに築いてゆくことが目標です。

希土類金属ユーロピウム (Eu) 化合物の純良単結晶育成と物理的性質の研究

琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程3年
仲村 愛

私は希土類化合物の1つであるユーロピウム (Eu) の化合物についての研究を行っています。化合物中で希土類の価数は3価が一般的ですが、Eu化合物は2価 (Eu²⁺) が安定な電子状態です。しかしながら、この2価と3価の電子状態のエネルギー差が小さいために、温度、圧力および外部磁場により、2価から3価 (Eu³⁺) に近い電子状態に価数転移するEu化合物も存在します。本研究はこの価数転移を実験的に解明することを目的としています。なお、Eu²⁺ は Gd と同じ磁気モーメントを持ちますが、Eu³⁺ は磁気モーメントを持ちません。これまで、様々なEu²⁺ の化合物について、単結晶を育成し、比熱、磁化率・磁化、ドハース・ファンアルフェン (dHvA) 効果や圧力下の熱電能および電気抵抗などの測定手段を用い、磁性やフェルミ面および電子状態について明らかにしてきました。今年度はEu³⁺ および価数揺らぎを示すEu化合物の単結晶を育成し、価数変化による磁性、電子状態、特にフェルミ面の大きな変化を実験的に明らかにする予定です。

現在、携わっている物性分野の研究は、結晶の中に閉じ込められた目に見えない電子が示す伝導性や磁性等の性質で、とても興味深いものです。多くの理論や過去の実験を参考にし、あらゆる仮定の下で実験を行い、予想通りの結果が得られ

ることもありますが、新しい変化や発見が生まれることもあり、非常に興味のそそられる研究です。将来は、この分野の研究者になり、多くの疑問を解明していきたいと考えています。

テレビジョンと「記録」の戦後史

——黎明期に見るドキュメンタリー表現の変容と展開

法政大学大学院 社会学研究科 社会学専攻
博士後期課程3年 丸山 友美

テレビ・アーカイブを活用する視聴分析と周辺資料の収集から、ドキュメンタリーがどのようにテレビというメディアのなかで変容・展開していったか実証すること。この目的を達成するため、日本の最初期テレビ・ドキュメンタリー『日本の素顔』(1957-64、NHK) の調査、新聞・雑誌で交わされた言説の収集、質的な変遷の実証を試みている。

博士論文の執筆にあたり、国内の未成熟な映像アーカイブの現状把握と活用法を明示していくことから、民間放送と地方放送局をも巻き込んだテレビ・アーカイブの拡充と進展が期待できる。具体的な作業は、①番組の発掘・復元とその視聴、およびメタ・データ付与による整備②番組台本や周辺資料の収集③視聴の際に書き起こした構成表を用いて、テレビ的ドキュメンタリー構造の変遷を見ている。

本研究の完成によって、国内のテレビ・アーカイブ環境が改善し、NHKと民放を超越して番組を保存するだけでなく、収集資料を紐づける相互的なデータベースの構想・構築が期待できる。また、国外の研究者たちに、研究情報を発信していく本研究は、高い有用性と発展性を備える。

こうしたテレビの基礎研究の足場が固まることは、テレビ・アーカイブを利用した博士論文が、数多く執筆される環境の拡充を意味する。さらに、高い水準の研究に取り組む若手研究者の育成は、世界に対して研究発信の機会を増やしていくことと同等である。その第一人者として研究に取り組み、日本のテレビ研究に寄与したいと考えている。

社会福祉奨学生

身体障害者の実態と社会福祉及び法律の変遷について

早稲田大学 社会科学部 社会学科2年
山科 夏実

私は今、ゼミで研究テーマとして障害福祉に取り組んでいる。日本はかつては障害者に対して優しい国ではなかった。戦後、傷痍軍人に対する待遇のために身体障害者基本法を作り、その後改正を経て、更に1981年の国際障害者年を契機に日本は障害福祉に対して、つまり障害者に対する福祉政策に積極的に取り組むようになった。日本の障害福祉への取り組みはまだまだ始まったばかりである。私の研究の最終目標

は、障害福祉の各国比較、問題点・改善点の抽出、それに対する新たな政策の提案である。他に福祉関係の講義を複数取っており、それと組み合わせて障害福祉について研究を進めるつもりである。私は正直これまで自身の障害や他の障害者に対して真摯に向き合った事があまりなかった。それは私の環境が恵まれていたからでもあるが、ひとり暮らしを始め、これからは障害者に対する現状を知っておく必要があると思った、近年、障害者総合支援法が施行されるなど、私達障害者にとって良い傾向が生まれている。私自身が障害者でなかったら今ここにいることもないと思う。私自身が障害者であることが無駄にならない、自分の存在が意味のあるものであるように、障害者にとって過ごしやすい社会を創る。現実味のない展望だとしてもそれが私の将来目指すものである。

色素前駆細胞が有する多分化能に対するNotchシグナルの重要性

岐阜大学大学院 医学系研究科 再生医科学専攻
博士後期課程3年 渡邊 奈月

色素前駆細胞は多分化能を持つ神経堤細胞から分化した細胞であり、色素細胞にしか分化できない。しかし私たちは、生体から単離した色素前駆細胞が色素細胞以外の細胞であるグリア細胞や神経細胞に分化できること、つまり多分化能を示すことを発見した。私の研究は生体から単離した色素前駆細胞が、なぜ多分化能を示すようになったのかを解明することである。私は多くの背景よりNotchシグナルに注目した。マウス胎仔から単離した色素前駆細胞を用いて、Notchシグナルを阻害もしくは活性化させる実験を行った。その結果より、色素前駆細胞の持つ多分化能にNotchシグナルが綿密に関係していることを見出した。さらに現在は、このメカニズムの解明を目指し、色素前駆細胞におけるNotchシグナル関連遺伝子の探索を進めている。この研究の成果を色素前駆細胞以外の細胞にも応用することで、その潜在的な分化能も明らかに出来るかもしれない。また、色素前駆細胞が神経系の細胞へと分化できることを利用して、移植医療などによる神経疾患の治療に役立つことが期待できる。さらに、色素前駆細胞が神経堤細胞に類似した多分化能を持つことから、その分化メカニズムを知ることでCHARGE症候群やHirschsprung's症といった様々な神経堤細胞の異常によって起こる先天的な疾患の原因解明や治療に貢献できると期待できる。

【知的障害のある人の意思決定をどのように支援するか】

金沢大学 人間社会学域 地域創造学類 福祉
マネジメントコース4年 永野 椎奈

従来、知的障害のある人に関しては親や支援者が代わりに決定を行ってきたが、障害者権利条約における障害の社会モデルへの転換により、知的障害がある人でも決定を行うことは可能で

あり、そうすることで本人がより主体的な人生を送ることにつながるという認識が生まれつつある。ただし、知的障害のある人は、知的障害があるが故に決定そのものが難しかったり、本人のみで決定すると本人に不利益が生じたりする場合があるため、合理的配慮としての意思決定支援の必要性が高まっている。

本研究では、意思決定の具体的場面として選挙を取り上げる。わが国では、2013年5月27日に公職選挙法が改正され、それまでは選挙権が与えられなかった成年被後見人の選挙権が回復した。それにより、判断能力を欠く人々の選挙権を実質的に保障するにはどうしたらよいかという課題が新たに発生した。この課題を考えるにあたり、わが国で行われている数少ない取り組みや他国での考え方を分析・評価しながら、今後の意思決定支援の在り方を考察する。

この研究やこれまでの様々な当事者活動を通して、権利保障の視点を磨き続けてきた。その視点を活かし、今後も自分自身を含めた「生きづらさ」を抱えている人々の生活向上のために尽力していきたい。

安井医学奨学生

口腔バイオフィーム感染症の新規予防法の探索

北海道医療大学大学院 歯学研究科 歯学
博士課程4年 眞島 いづみ

歯科の二大疾患である齲蝕（虫歯）と歯周病の直接的原因は口腔バイオフィーム（歯垢）である。これまで、これら疾患の予防は、歯ブラシによる口腔バイオフィームの機械的清掃に一存してきたが、口腔バイオフィームを細部まで除去するのは極めて困難であり、厚生労働省のH23年度歯科疾患実態調査結果がその実態を物語っている。

本研究は、これら疾患の予防のために、口腔バイオフィームの除去ではなく、口腔バイオフィームの形成を初期段階で阻止するという独創的視点から、新規の齲蝕及び歯周病の予防法の確立を目的としている。

口腔バイオフィームは様々な細菌の相互作用によって形成され、その成熟には細菌間の情報伝達機構が不可欠とされている。これまでの研究では、口腔バイオフィームの初期形成に大きく関わるストレプトコッカス属細菌とペイオネラ属細菌の細胞間情報伝達機構において、その情報伝達物質であるAI-1とAI-2の検出と精製に成功し、これらが口腔バイオフィームの初期形成に大きな影響を与えることを明らかにした。今後はこれら情報伝達物質を標的とした口腔バイオフィーム初期形成制御法を開発し、臨床応用に向けて研究を進める予定である。

歯科医師は重要な使命を持ち、日常的に診療と治療を行う。しかし私は、歯科医師であると同時に一女性研究者として、今後基礎歯学研究を推進し、その研究成果を多くの患者さんに還元出来るよう努めていきたいと考えている。

世界の女性との連携

キャサリン・ベル IFUW 会長の 年頭ご挨拶

2015年がIFUWとNFAの会員増加と可視化向上を果たす素晴らしい年になることを願っています。

年頭を機に2014年を振り返りますと、会員の皆様の価値ある参加とご支援により、生涯教育によって女兒と女性の力をつけるという私達の使命を前進させる活動的な年でした。主な成果としては、1) 中・高等教育及び万人のための教育等の教育に関する政策宣言の発表、三本柱の政策及び立場表明文4通を作成、周知を図る：2) 国連婦人の地位委員会(CSW)、人権理事会、女性に対するあらゆる形態の差別撤廃委員会に出席、ILO、CSW、ジュネーブでのNGO CSW北京+20イベント、ユネスコに声明文を提出：3) 科学、技術、工学、数学(STEM)分野への女兒と女性の進出を促進：4) 国際奨学金を10名に授与：5) 政策に関するセミナー・イベントを諸地域で開催：6) IFUWとNFAの可視化をウェブサイト、ソーシャルメディアを通じて向上：7) 1か国のNFAが新加入、2か国が加盟承認を待機中等です。

女性エンパワーメント委と国際ネットワーク委が共催した12月6日の勉強会で、青木 IFUW 元会長から国連の女性の地位向上への取組みと北京会議の位置づけを伺いました。

「CSW と北京行動計画」

青木 怜子

この3月、第59回CSW「国連婦人の地位委員会」が開催される。優先テーマは「北京行動綱領」の検証で、1995年に北京会議で採択された「北京行動計画」Beijing Platform for Action (BPfA) を軸とする。

行動計画は12項目に及び、「貧困」「教育と研修」「健康」「暴力」「武力闘争」「経済」「権力および意思決定」「女性の地位向上のための制度的な仕組み」「人権」「メディア」「環境」「女兒」の課題を挙げている。

実は、これらの課題は、北京会議の翌年から99年の4年間に、CSWの重点的テーマとして順次検証されてきた。さらに国連は、北京会議の5年後となる2000年を、「行動計画」を実践・評価する年として専門官による地域会議を開催した(「北京+5」)。続いて2004年には「北京+10」を前に「北京行動計画」の10年検証を目的とした地域準備会議を、2009年には「北京+15」、2014年には「北京+20」に向け、それぞれ地域準備会議を開いている。なぜ、これほどの回数を重ね、CSWは「北京行動計画」の検証を行ってきたのだろうか。

またIFUW内の情報伝達サービスを向上させ、IFUW in FocusをNFAリーダーに、週刊Updateを内外の聴取者に送付し、会員増強のためのワークショップを国や地域で開催しました。こうしたイベントが興味を誘い、会員増強につながることを証明しましたが、その見返りを得るための投資が必要です。

IFUWの中核を成す、会員、可視化、資金調達の3領域に關してはいずれも大きな前進を遂げました。スタッフは協力と支援を求めて積極的に行動し、今後も続ける意向です。また、化粧品、日用品、消費者関連製品、自動車など幅広い企業との話し合いを進め、協力を得てきたほか、各種財団に対する資金要請書の提出など、あらゆるルートを通じて積極的に活動を進めました。

IFUWが強力になれるか否かはNFA次第なのです。各NFAが会員を増強し、会員向けの計画を履行し、事業を展開していくことが必要です。年頭に当たり、皆様がWebinarに参加し、IFUW in Focusによる最新情報をご覧下さるようお願いします。こうした情報の伝達はリーダーのみが対象ではなく、各リーダーはすべての会員に情報を浸透させていただくことをお忘れなく。今年も皆様と共に協力し活動していくことを楽しみにしています。(平野和子・訳)

そもそも、「北京会議」は1985年に開かれた「ナイロビ会議」の成果検証を目的とした。その



「ナイロビ」は、それに先立つ「メキシコ」(1975)、「コペンハーゲン」(1980)の各国連婦人会議と三位一体を成し、その締め括りとして「北京」があった。

会議はいずれもが個別の共同宣言を採択し、「ナイロビ将来戦略」や「北京行動綱領」が生まれていく。ちなみに、「将来戦略」は、372項目に及ぶ具体的・詳細な問題点を指摘したのに対し、「行動綱領」は12項目に絞り包括的なテーマで、戦略を行動にと訴えた。

「北京会議」後、今一度国際会議を開くべきだという声は幾度も聞かれた。反面、「北京会議」が行動を求める限り、実践への努力が先決だという意見もあり、国連は「北京会議」をフォローする小規模の会議を繰り返してきた。まさに、戦略を行動に移す難しさが潜んでいるのであろう。

今年、「北京+20」となるCSW59は、女性の人権と基本的自由を求め「北京行動綱領」の包括的検証をする。検証は、果たして、行動への効果的指針を新たに打ち出すことができるのだろうか、興味津々の会議である。

事業報告 ワークショップの開催 会員100名拡大をめざして!

会長 中村 久瑠美

JAUWの会員数は現在930名、30年前は2700名もいたのになんと1/3に減少してしまいました。右肩下りの会員数に私は強い危機感を禁じ得ません。会長として本会の活性化をはからなくては、との強い決意で就任してわずか一ヶ月目の2014年6月、IFUW主催のアジア地区ワークショップに山下 CIR 理事とともに参加して、強い感銘をうけました。

テーマは Building Membership and Visibility - ずばり会員拡大と会の活性化を考え即実践に移そうというものでした。

JAUWはIFUWに対して“2016”年5月の総会までに会員100名“増員する”ことを約束しました。各支部で会員数の1割を増員すれば、100名は可能な数です。ワークショップはわくわくどきどきの面白さがあります。さあ、どんなに興奮するか? まずは参加してみてください。JAUWを活性化させ、楽しい会にするために必ずやワークショップは役立ちます。

第1回ワークショップ 東京 山下いづみ

東京タワーがよく見える日本女子会館にて、1月31日(土)、会員100名拡大に向けて、第1回ワークショップを開催した。茨城支部、神奈川支部、静岡支部、東京支部、理事、委員長、総勢23名の参加だった。昨年シンガポールにてIFUW主催で行われた2日間のワークショップを3時間に凝縮した。

始めに、中村会長から趣旨説明があり、4つのグループ(各5人ずつ)に分かれてワークをした。

ワークは5つ、1. SWOT分析 2. 会員のエンゲージメントの順序 3. 会員のエンゲージメントのレベル 4. 利害関係者マップ 5. 行動計画表作成。

1のワークで参加者はJAUW自身の強みと弱み、そして外部要因とし、何がJAUWのチャンスになることであり、脅威であるかを明確にした。2のワークでは、世代別に興味、ニーズなどを考慮した会員へのお誘いの仕方など意見をだし、3のワークでは、主に広報について様々なアイデアをだしあった。4のワークではJAUWを中心にどのような利害関係者が存在するのか、山下から簡単な紹介をし、最後に具体的に各支部で会員増に向けて行動計画表を作成した。

活発な意見がだされ、約40人の会員増を見据えた行動計画案の発表となった。今後、支部へ持ち帰り、詳細をつめて、会員の輪を広げていくことを期待する。



第2回ワークショップ 芦屋 松村 和子

2015年2月14日のバレンタインデーに芦屋市民センター203号室で13時10分頃、縄田副会長の挨拶、中村会長の趣旨説明の後コーディネーターの山下さんのもとワークショップが始まりました。

京都支部2名・奈良支部1名・大阪支部3名・神奈川・茨城・長崎・東京各1名・神戸12名・未来の会員1名、中村会長と山下さんの合計25名が参加しました。最初何なのか戸惑う方も見られましたが、テーブルごとに意見を出し、発表するたびにどんどん白熱してきました。最後に帰られる方が「会員を増やせそうな気がしてきた」、「会長等本部の方に直接話ができて嬉しかった」、「本部の動きが直接感

じられ良かった」、など素敵な感想が得られました。

反省はもう2~3の支部が来て欲しかった。各支部会員数の1割を増員人数目標にしましたが、退会人数を考えるともう少し多い目に目標を立てたほうが良いのかも、と思いました。

第13回 自然科学講演会報告 免疫応答の指揮者：樹状細胞

京都大学副学長・大学院生命科学研究科教授

2014年度ロレアル-ユネスコ女性科学賞受賞者 稲葉 カヨ

2014年12月13日(土) お茶の水女子大学にて

【共催】科学研究奨励委員会 東京支部 お茶の水女子大学理学部

第13回自然科学講演会は京都大学副学長の稲葉カヨ氏を



講師に招いて、12月13日に開催されました。師走の土曜日にもかかわらず大勢の方が参加し、お茶の水女子大学理学部大講義室は講演が始まる頃にはほぼ満席となりました。

ウイルスや細菌の侵入を防ぐ生体防御機構には、獲得免

疫応答と自然免疫応答があり、この2つの免疫応答を繋ぎ、指揮者として働く樹状細胞があります。ご講演では、この樹状細胞の働きを中心に免疫応答の巧妙さを分かりやすくお話していただきました。まずご自身の経歴から始まり、奈良女子大学の植物学専攻であった学部3回生の折りの特別講義で免疫に興味を持ち始め、京都大学大学院理学系研究科に進学してからは、動物学専攻の免疫生物学を専攻し、免疫に関わる研究のスタートを切りました。樹状細胞に関する先生の最初の論文を契機にした2011年ノーベル医学・生理学賞を受賞したロックフェラー大学のラルフ・スタイマン博士との出会い、その後に続く共同研究へと展開したお話はエキサイティングでした。京都大学の教員となった先生は、定期的にニューヨークのロックフェラー大学に滞在して研究を進め数多くの成果を挙げられました。そのハードワークさは当時の実験ノートの凄まじいスケジュールからも窺い知ることができ、感動的なご講演でした。

(科学研究奨励委員会 西澤直子)

支部だより

北から～南から

温故知新の心で

新潟支部長 長谷川 道子

Q 最近の支部の活動は？

A 新潟支部は1947年結成以来、女子高等教育の推進を通じて女性の地位を高めるという目的に沿って活動しています。奨学賞は1950年第1回を贈って以来、今年度の第65回で955人になりました。1999年からはベトナム国内の女子学生にも奨学金を贈っています。その受賞者からは、働いて得た収入の一部を奨学金として贈りたいとの申し出がありました。一粒の種からの実りの大きさを嬉しく感じています。

会員相互の親睦は、紅葉の秋を訪れ、地域を学び、名所・名物に触れて楽しんでいます。今年度は新潟県女性財団主催の「にいがた女（ひと）と男（ひと）のフェスティバル2014」に参画し、外部団体との交流を大切にしております。

Q ご当地自慢は？

A 日本海に沈む夕日の絶景です。どんなに秀れた芸術家にも及ばない自然のみぞ持てる技としか思えない空いっぱいに描かれた茜の彩りとその広がりです。

同時に日本海の向こうに浮ぶ佐渡のスッキリとしたシルエットの美は筆舌に尽くせません。佐渡には、絶滅寸前だったトキが住民の深い愛情に生まれ、数も増して艶やかに舞っていると思われます。加えて日本海で捕れる海の幸は最高です。旬の品々を直ぐ食される、自然の恵みの旨味は新潟で十分味わえます。日本海は健康な命の泉です。海に良い環境を守り続けてこそです。

Q これから力を入れたいことは？

A 新潟支部の会員が増加し、若々しい会員の息吹きがたぎることを願っています。よい方法があれば教わり、実行したく思っています。研究活動として「新潟県の中小企業におけるワーク・ライフ・バランスの現状と課題」をテーマに着手しています。温故知新の精神で魅力的な新潟支部でありたいと思います。



奨学賞授与式

支部活動でエンパワメント

岡山支部長 杉村 洋子

Q 最近の支部の活動は？

A 今年度も例会を4回、「私が出合った原発災害～今、福島の子どもたちは～」や「子育てへの切れ目ない支援～フィンランドのネウボラにまなぶ～」などの公開講演会を岡山市との共催で開催致しました。講演会後は「ワールドカフェ」方式で参加者との意見交換会を行っています。また、30回にわたる「外国人による日本語弁論大会」を一つの区切りとして、新しい事業「岡山のCOOL発見！」を開催し、「岡山のお土産」や「岡山の風景」をテーマに、岡山県国際交流協会と共催し、様々な立場の在住外国人の参加による討論会を行いました。さらに、研修旅行を実施し、現在世界遺産に登録申請中のハンセン病療養所であった「長島愛生園」へ見学に行きました。今年度最後の事業として、3月8日の「国際女性デー」には、ドキュメンタリーフィルム「女性、紛争、平和」の上映会を行い、元IFUW会長の青木怜子さんに解説していただきます。その後は商店街にて「東日本大震災高校生奨学金支援」のためのバザーを行う予定です。

Q ご当地自慢は？

A 会員の方々が様々な分野で活躍をされていて、活発な意見と企画を出してくださり、時代に即した情報を発信できることです。豊富な人材に恵まれ、一人ひとりが主体的に会の活動を担ってくださること、活動を即「支部便り」として届け、会に参加できなかった方にも活動の共有化が図れることなどです。

Q これから力を入れたいことは？

A 会員同士の意思の疎通を大切に、伝統と歴史の中で高齢化、固定化しやすい組織を、時代とともに変革できるように、内部の力を持続させることです。また、誰もがリーダーとなり、エンパワメント出来るようリーダー経験者が積極的に次世代を応援していくことです。そして、他団体とのネットワーク化を図り、大学女性協会の目的達成のための社会活動を行います。



2014年国際女性デーパレード

2015年 新春のつどい

—1月10日 京王プラザホテル—

事業委員会E 今村 麻子

「新春のつどい」担当、事業委員会Eチーム3名が準備を始めて3週間、奨学委員会・ホテルとの打ち合わせも済み、多くの方々のご助力をいただき無事に開催の運びとなりました。

第1部の奨学金贈呈式には、奨学生10名全員が出席され、中村久瑠美会長から代表者1名に賞状と奨学金が授与されました。各奨学生のスピーチでは、ご自分の研究するテーマを自信をもって堂々と発表される姿勢に感銘を受けました。これから困難なこともあるでしょうが、それを乗り越えて研究に取り組んでいく力を十分お持ちのように感じられました。

第2部は2002年度の社会福祉奨学生木村りえさんと妹の木村りささんの「ピアノ連弾」です。りささんによる演目の紹介があり、姉妹ならではの力強い、心を癒す調べに会場が和やかな雰囲気に入れられ、万雷の拍手で終了いたしました。

第1部では奨学生の希望に満ちたチャレンジ精神。第2部ではその成果を見せていただいたように思いました。高齢化が進む大学女性協会ですが、若い彼女たちに負けず、まだやれることがあるのではと感じた「新春のつどい」でした。



木村りえさんと妹のりささん

アフタヌーンコンサート 「世界の名曲玉手箱」

事業委員会C 市川知恵子

2014年11月26日（木）午後、古賀政男音楽博物館げやきホールにおいてJAUW主催「世界の名曲玉手箱」が開催されました。出演はソプラノ伊藤晴（いとうはれ）さん、バリトン村松恒矢（むらまつこうや）さん、ピアノ石坂幸治（いしざかこうじ）さん。伊藤晴さんは藤原歌劇団創立80周年記念公演「ラ・ボエーム」でムゼッタ役に抜擢され、高い評価を受けた最も期待される若手です。

第1部ではモーツァルト「魔笛」、プッチーニ「つばめ」、ビゼー「カルメン」、ヴェルディ「椿姫」など耳に馴染んだ名曲がオペラの魅力を存分に楽しませてくれました。第2部では木下牧子歌曲集、ドビッシェ、メンデルスゾーンやミュージカルの「トゥナイト」など。伊藤さん、村松さんのハーモニーの美しさ、メロディーの心地良さ、華麗な音楽に目も耳も大満足でした。石坂さんのピアノ独奏は繊細かつ洗練された響きが秀逸でした。

別の団体が催した1年前のコンサートの時から応援して

いる方は「1年前より素晴らしく成長された。良かった、良かった。」と家族のように喜ばれていました。公演後ロビーでの演奏者との歓談には、お元気な笑顔のファンの長蛇の列がありました。音楽は脳の血流を良くして認知症予防に効果有りとさまざまな研究が行なわれています。東京フィルハーモニー交響楽団の広報渉外部長の松田亜有子氏の言葉「音楽は美容液」は示唆的です。皆様、コンサートを楽しみながら健康長寿をめざしませんか。



オペラの魅力にあふれて

留学生交流会 留学生と共に「和食」を楽しむ会

文化交流委員会+奈良支部

文化交流委員長 宮下 好子

文化交流委員会は、2011年度以降、年に一度、広範囲の文化交流を目指し、支部での事業開催を実施。古典芸能観劇、歴史建造物見学等支部独自の文化の紹介を依頼。2014年度は、奈良支部〈留学生と共に「和食」を楽しむ会〉に決定。本部と各支部の連携でJAUW活動への理解を期待する。

奈良支部長 平井タカネ

2月7日（土）は大変寒い日でしたが、陽射しはほんの少しだけ春の兆しを感じさせるものでした。会場は京都の高台寺に近い和食の老舗「菊乃井」で、3代目ご当主の村田吉弘氏は和食の世界無形文化遺産登録（2013年）に中心的な役割を果たされたことで著名です。お食事の時はテレビでも拝見するご主人が自ら和食と本日のご膳についてわかりやすく説明をしてくださいました。留学生9名の出身は、インドネシア、ベトナム、マレーシア、スリランカ、中国、そしてメキシコと多様でした。いずれも流暢な日本語で自己紹介や質問などをして私たちを驚かせました。本部からは宮下委員長と橋本委員そして中川京都支部長と中川会員を迎え、奈良支部会員17名の参加（総勢30名）により心行くまで「和」のお膳を楽しむことができました。食後は円山公園一八坂神社—四条河原町の散策、そして京都駅隣のホテルでのティタイムまで留学生と会員の笑顔と語らいの交流が満ち溢れていました。

準備の不十分さもありましたが、留学生はじめ多くの皆さまの「とても充実した会であった」との声に嬉しくなり、ほっと一息ついています。



季節の彩りと旨みに感激！

第17回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式ご案内

第17回賞贈呈式および祝賀パーティーを開催いたしますので、多数ご出席いただきたくご案内申し上げます。

日 時 2015年5月30日(土)
 贈呈式・受賞者講演 13時00分～14時30分
 祝賀パーティー 14時40分～16時
 場 所 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
 東京都千代田区九段北4-2-25
 TEL 03-3261-9921
 JR、東京メトロ、都営地下鉄「市ヶ谷駅」より徒歩3分
 会 費 2,500円
 申 込 先 (一社) 大学女性協会事務局
 TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889

「HPを活用されていますか？」 梅田 和子

リニューアルしたHPを昨年2月にアップして、一年が経ちました。その間、多くの会員のみなさまのご協力で、少しずつではありますが、充実したHPになっていったと思います。

JAUWの歴史を物語る多くのセミナー・シンポジウムの報告書、加えて1995年に開催された国際大学婦人連盟第25回国際会議報告書、1996年に発行された大学婦人協会50年史、更に1949年6月18日発行の1号から全ての会報をアーカイブに公開できたことは先輩方のこれまでの多大なご努力に報いることができたのではと思っています。

毎回アップされているIFUWニュースは翻訳に携わる方々の献身的ご協力によるものです。また各委員会・支部のみなさま方からも数多くの情報をお寄せいただきました。

現在のHPには多くの情報がアップされています。これらの情報を是非有効に活用していただきたいと思います。

役員選考委員会 委員長 岩村 道子

理事会は「役員選考委員会に関する規程」に基づき、2014年度・2015年度の役員選考委員を選出し、下記の7名の方々に委嘱いたしました。なお委員長は、委員の互選により決定しております。

委員長 岩村 道子
 委員 細田 照子 (書記) 秋月 薫 橋本 慶子
 早瀬 暢子 松比良節子 森川 淳子

JAUW2015年度理事候補者推薦依頼

現在JAUWの理事会は理事13名・監事2名で運営されております。役員選考委員会は、理事会業務の効率化、理事の負担の軽減を図るために2015年度に理事1名を増員することを提案いたします。つきましては、候補者の推薦を3月12日までに封書にて事務局宛にお願い申し上げます。

新入会員 理事会承認 2014年11月～2015年2月

東京支部 菊池摩耶子 東京支部 武内 道子
 東京支部 原 祐香理

コンサートのお知らせ

未来を拓く自己表現

～海・空・風を奏で舞う イサドラ・ダンカン・ダンス～

日 時：2015年6月25日(木) 18:30開演
 場 所：古賀政男音楽博物館 けやきホール
 (小田急線代々木上原駅南口徒歩5分)
 曲 目：タイユフェール「フランスの花々」
 ショパン「プレリュード集」
 ブラームス「ワルツ集より」ほか
 ダン ス：佐藤=ヴェイギンズ 道代
 ピア ノ：吉岡 優子
 裸足の舞姫イサドラ・ダンカンの躍動感を佐藤さんの自由自在な表現でお楽しみください。
 チケット：一般 3,500円 学生 2,000円
 (4月1日発売予定)
 ※詳細はJAUW事務所あるいはHPで。



お知らせ 事業委員会

- 《大本山總持寺》見学 精進料理と拝観 3,300円
5月29日(金) JR 鶴見駅西口 11:50集合
 - 《第2回 苔玉作り》6月末予定
 - 《第7回街歩き一本郷・湯島・ニコライ堂とランチ》9月頃予定
 - 《国立大劇場のバックステージツアー付き歌舞伎》
3月13日(金) 12時開演
梅雨小袖昔八丈 一髪結新三一、三人形
 - 《国立能楽堂》解説 馬場あき子
狂言 饅頭 山本則孝 能 実盛 梅若 万三郎
6月13日(土) 午後1時開演 4,500円
- ※詳細はJAUW事務所あるいはHPで。

理事会から

- ▶ 国際女性デーによせて、2015年3月4日(水)、午後1:30～4:30、JAUW主催の公開講演会&フリートーク「人身取引をめぐって」-女性と子どもの人権III-が津田塾大学同窓会2F 会議室で開催されます。参加費は500円です。
- ▶ 2015年全国セミナーの日程が10月17日(土)、18日(日)に決まりました。
- ▶ CSW59 (国連婦人の地位委員会) / NGO への参加支援者として、木藤まどかさん、杉山万由子さんが決まり、同伴者として城倉純子女性エンパワーメント委員長が参加します。
- ▶ 2015年2月21日(土)、アルカディア市ヶ谷において、国際奨学生2名の報告会が行われました。詳しくは次号で報告します。

訂正・追加 - 253号の4ページ・IFUW アジア地域ワークショップ、シンポジウム登壇者の追加→国立シンガポール大学のPatricia ONF Soh Khim

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
 電 話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
 http://www.jauw.org E-mail: jauw@jauw.org
 発行人 中村 久瑠美 編集責任者 端本 和子
 発行日 2015年3月2日